



開物成務

開成小のよさを再認識～ありがとう～

先週、開成小の子どもたちのよさをあらためて感じる場面がありましたのでご紹介します。

校長が掃除の時間、校庭で草むしりをしていた時のことでした。6年生の子どもたちが、「お手伝いします」と駆け付けてくれたのです。6年生の助けを受け、除草作業が進みましたが、それ以上のうれしかったのは、手伝いに来てくれた6年生の気持ちです。自分たちの担当場所の掃除を終えた時、校庭の私の姿を見つけたのでしょうか。「大変そうだな。手伝おう」と行動にうつしてくれたのです。「相手をおもう心の温かさ」「それを行動に移す行動力」、すてきな子どもたちだなと感じました。そして次の日もそれは続きました。

実は、去年の6年生もそうだったのです。私が荷物を持っている時、作業をしている時、「お手伝いします」「何かできることはありませんか」と、よく声をかけてくれてうれしく思っていました。そして、このような場面は、6年生だけでなく、学校生活の中の様々な場面で見られるのです。学級で、学年で、学年の枠を越えて、そして子どもたちと教師が、助け合い、いたわりあい、温かさにつつまれる場面をよく目にします。

開成小のめざす子ども像は「カイセイ」で表現されていますが、その中の「イ」「いたわりあっていきる子ども」を子どもたちはその姿で体現してくれています。伝統として受け継いでくれていると感じています。

また、日頃、校長として感じていることは、開成小はたくさんの方に支えられていることです。保護者の方は、子どもたちのため、学校のため、そして教職員のためとご協力いただいています。地域の方は、防犯・交通安全をはじめ、様々なことで学校のことを考えサポートし、温かく見守ってくださっています。コロナ禍の中、学校で子どもたちが生き生きと活動できているのは、皆様のご協力のおかげです。あらためて御礼申し上げます。

今の社会では、SNS 問題、誹謗中傷問題等、「相手をおもう心」の大切さを改めて感じさせる問題が発生しています。開成小ではこれからも「助け合う心」「いたわりあう心」を大切にして教育活動を進めて参ります。

◇不織布マスクの使用について◇

皆さんご存知のように、新型コロナウイルスのデルタ株は、感染力が強いと言われております。学校では、基本的な感染予防策を徹底して行って参りますが、ご家庭で協力いただきたいことの1つが、「不織布マスク」の使用です。市保健所でも①不織布マスクを隙間なく着用すること②部屋や車内の定期的な換気③飲食時は会話を控えることを改めて呼びかけています。不織布マスクの使用にご協力ください。